

令和元年6月13日現在

機関番号：64401

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）

研究期間：2014～2018

課題番号：26101005

研究課題名（和文）植民地時代から現代の中南米の先住民文化

研究課題名（英文）Indigenous Cultures in Latin American Countries from the Colonial Period to the Present

研究代表者

鈴木 紀（Suzuki, Motoi）

国立民族学博物館・人類文明誌研究部・准教授

研究者番号：40282438

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 26,150,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は新学術領域研究（研究領域提案型）「古代アメリカの比較文明論」の計画研究A04班として実施した。研究目的は、1)植民地時代から現代まで、メソアメリカとアンデス地域を中心とする中南米社会における「古代文明の資源化」の実態を事例研究によって解明すること、2)事例研究を比較し、古代文明の終焉について再考すること、の2点である。

研究の結果、現代の中南米諸国では、政治、経済、社会、文化の各方面で、古代アメリカ文明が資源として頻繁に利用されていることが明らかになった。このことは、古代アメリカ文明は消滅した文明ではなく、植民地時代以降も西洋文明と共存していることを示唆していると結論できる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、マヤ・アステカ・インカなど古代アメリカ文明に関する研究は、考古学的手法による先スペイン期の文明形成や発展過程の解明に偏重していた。本研究の学術的意義は、これまで等閑視されてきた植民地時代以降の古代アメリカ文明の動態に焦点をあてたことにある。その結果得られた「古代アメリカ文明は終わっていない」という結論は、中南米の人々の文化的ルーツの深さを再評価するものである。本研究の社会的意義は、一般に流布している古代アメリカ文明を謎の文明や、消滅した文明としてとらえる見解に是正を迫るだけでなく、そもそも文明の継承とは何を意味するのかという根源的な問いに対して、新たな答えを提示したことである。

研究成果の概要（英文）：This study was conducted as the research group A04 of the Grant-in-Aid for Scientific Research on Innovative Areas (Research in a proposed research area) "Comparative Studies on Ancient American Civilizations". The purpose of the study is 1) to ask how Ancient American Civilizations have been utilized as resources in Latin American societies centered on Mesoamerica and the Andes region from the colonial era to the present, by means of a series of case studies, and 2) to rethink whether or not the ancient civilizations are over by comparing the case studies.

Case studies have shown that in modern Latin American societies, Ancient American Civilizations are frequently used as political, economic, social and cultural resources. It can be thus concluded that this finding suggests that the Ancient American civilizations are not extinct civilizations, but that they have been coexisting with the Western civilization ever since the beginnings of Spanish colonization.

研究分野：文化人類学

キーワード：文化人類学 歴史学 ラテンアメリカ 先住民文化 資源 博物館 遺跡

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、新学術領域研究(研究領域提案型)「古代アメリカの比較文明論」(平成26年度-30年度)の計画研究A04班として実施することになった。「古代アメリカの比較文明論」の研究目的は、精密な自然科学的年代測定法や古環境復元によって、メソアメリカとアンデスの高精度の編年を確立し環境史を解明する、精密な編年を基にメソアメリカ文明とアンデス文明の詳細な社会変動に関する通時的比較研究を行う、植民地時代から現代まで、メソアメリカとアンデスの文明が中南米の先住民文化に及ぼした影響を検証する、の3点である。本研究はこのうちに関連する研究として始まった。

2. 研究の目的

本研究は2つの目的を設定した。第1に、植民地時代から現代まで、メソアメリカとアンデス地域を中心とする中南米社会において、「古代文明の資源化」がいかに行われてきたかを事例研究によって明らかにすることである。「古代文明の資源化」とは、古代文明に関する情報が、何らかの課題解決のための資源として利用され、その結果、古代文明のイメージが再構築されることを示す概念である。第2に、事例研究の比較を通じて「古代文明の資源化」の特徴を明らかにし、それによって「古代文明の終焉」について再考することである。はたしてメソアメリカとアンデス地域に開花した古代アメリカ文明は終わったといえるのか、終わっていないとすれば、どのような形で存続しているといえるのか。従来、古代アメリカ文明に関する研究は、主に考古学的手法による文明の形成と発展過程の解明を目指すものに偏重していたが、本研究は、古代アメリカ文明の終焉に焦点をあてることにより、古代アメリカ文明の長期的な動態を捉えようとした。

3. 研究の方法

事例研究は、メソアメリカとアンデス地域を中心に、中南米各地における多様な「古代文明の資源化」現象を把握するため、歴史学1名(井上幸孝)、文化人類学8名(鈴木紀、生月亘、工藤由美、小林貴徳、杓谷茂樹、禪野美帆、藤掛洋子、本谷裕子)で研究班を組織した。この他、本研究が開催した研究会やシンポジウムでは、歴史学2名(武田和久、佐藤正樹)、文化人類学1名(八木百合子)、公共考古学者1名(ダニエル・サウセド・セガミ)を研究協力者として招いた。その結果、メキシコ、グアテマラ、エクアドル、ペルー、チリ、パラグアイ、アルゼンチンの7カ国における事例を検討することができた。

事例の分析にあたっては、資源人類学(内堀2007)の枠組みを元に、資源化の政治学、資源化の解釈学、資源の想像の3概念を設定し、各事例の特色を抽出した。は、同一の素材を異なる関心から資源化しようとする主体間の関係を問うものである。は、資源化を試みる主体が、資源化という行為や、資源とする素材に対して見出す意味を探るものである。は、資源化する素材の属性が曖昧な場合に、その属性が想像されることを意味する。

比較研究においては、研究事例を1)植民地時代、2)古代文明の遺跡、3)都市コミュニティ、4)先住民文化、5)抽象概念、6)博物館展示の6ジャンルに分類し、各ジャンルにおける「古代文明の資源化」の特徴を特定した。

4. 研究成果

(1)植民地時代における資源化:古代文明の資源化は植民地時代初期の16世紀後半から認められる。メソアメリカでは、先住民エリート層に属する者がスペイン語を用いて、アステカ時代の歴史を書き残している(井上)。アンデス地方やラ・プラタ地方など南米各地で先住民文化に対して実施されたレドゥクシオン(集住政策)は、インカの統治政策を評価し、その有効な部分を資源化したものとみなすことができる(武田)。またペルー北海岸でも、17世紀に地元の首長たちが自分たちの権利をスペイン人に主張するため、先スペイン時代に遡る出自を文書で強調した(佐藤)。これらの研究が示唆するのは、こうした植民地時代に資源化された情報が、後の時代の歴史家によって再資源化され、現在の古代文明観の一端を形成している可能性があることである。

(2)古代文明の遺跡の資源化:現代における古代文明の資源化がもっとも顕著に認められるのは、先スペイン時代の遺跡の保全と活用場面である。 Cholulera やチチェン・イツァは、メキシコでも大規模な遺跡であり、メキシコ政府は保全とともに観光資源としての開発を推進している(小林、杓谷)。これに対し、地元住民は必ずしも政府の方針に賛同するわけではなく、Cholulera では環境保全運動が、チチェン・イツァでは地元商人による不法占拠が生じた。こうした事態は、遺跡の活用方法をめぐる利害対立というだけでなく、古代アメリカ文明観をめぐる争いでもある点が重要である。同様の問題はペルーの首都リマの遺跡ワカ・メルガレーホでも生じている(サウセド・セガミ)。

(3)都市コミュニティ:現代の都市住民が自分たちのアイデンティティを表現する時にも、古代文明が資源化されることがある。メキシコ市内の旧先住民集落に暮らす住民は、集落の政治運動を展開する際に、アステカ時代に遡る集落の先住民性を主張する(禪野)。またペルーのクス

コ市に農村部から移住した住民は、アンデス文明風の意匠をほどこした衣装を好んで教会に奉納する(八木)。いずれも匿名的な都市環境の中で「古いもの」を用いて自己表現する点が共通である。

(4)先住民文化：古代文明の資源化は、古代文明に由来すると想定される先住民文化の資源化という形で生じることもある。グアテマラのマヤ系先住民の織物は、先スペイン期の技術を引き継ぐものとして注目を集め、国際的な取引の対象になっている。これに対しマヤ民族自身は、その意匠を集団的な知的財産として保護する必要に迫られている(本谷)。一方、チリの先住民マプーチェの治療行為は、チリ政府が代替医療として一般に奨励した。マプーチェ自身は、この行為を非マプーチェに提供することの是非を自問しはじめている(工藤)。いずれも、第三者による資源化が先住民自身による資源化や自文化の見直しを促している点が共通である。

(5)抽象概念：古代文明の資源化は、抽象的な概念や、不確定な過去に対して生じることもある。エクアドルの先住民教員たちは、自文化のルーツに関する教材開発に際して、「アンデス文明」の特徴を具体化させるために知恵をしぼる(生月)。パラグアイの民芸品ニャンドウティは、技術的には旧大陸起源が想定されるが、「パラグアイ性」を強調するために、パラグアイの先住民文化起源が謳われる(藤掛)。両事例からは、資源化に際して過去が想像される場合があることが示唆される。

(6)博物館展示：古代文明を展示する博物館は、古代文明の資源化を集中的に行う機関といえる。中南米諸国の国立博物館は古代アメリカ文明や先スペイン期の文化を、国民の文化的ルーツとして紹介することが多い。メソアメリカやアンデス地域では、古代文明が現代の先住民に継承されているという解釈が優勢であるが、その他の地域では、現代の多様な国民文化の一起源、もしくは現在から切り離された過去の伝統として位置付ける傾向が見られる(鈴木)。

(7)古代アメリカ文明の終焉を巡って：以上の事例は、植民地時代以降も、古代アメリカ文明に関する知識は繰り返し利用され、そのつど新しい意味を帯びて再生されていることを示している。現代の中南米の国家は、国民の文化的アイデンティティを育むために、国立博物館に特定の解釈にもとづく古代アメリカ文明の展示場をつくる。 Cholula や Teotihuacan の遺跡は観光開発の資源となり、巨万の富を生み出す装置となる。都市に暮らす住民は、自分の地位の向上のために、自分たちに所縁のある過去を探し、それを資源化しようとする。エクアドルの教師たちは、自分たちの過去を子供達にどう教えるかを日々考えざるをえない。そして、政府や企業による古代文明の資源化に対して、その後継者である先住民は、両義的にならざるをえない。先住民文化の第三者による評価という点は歓迎しつつも、その文化の自己決定権が奪われる事態には警戒しなければならない。このように現代の中南米では、政治、経済、社会、文化の各方面で、古代アメリカ文明が資源として活用されているといえる。

このことは、古代アメリカ文明の終焉に関する常識に再考を迫るものである。古代アメリカ文明は、先スペイン期に消滅していた、スペインによる征服によって消滅した、あるいはスペイン人がもたらした西洋文明に吸収されたという想定は、正しいであろうか。むしろ本研究が提示するのは、古代アメリカ文明が植民地時代以降も西洋文明と共存し、現在も続いているという仮説である。この仮説の妥当性については、今後、より明確な「終焉」概念の規定と、一層の事例研究によって議論する必要がある。

(8)考古学研究への含意：「古代文明の資源化」という行為を植民地時代以降に特有の現象と限定せず、先スペイン期にも生じていたと仮定することで、新たな文明観が開けてくる。文明が継続するとは、文化が世代間で連続的に継承されることばかりではなく、数十年、数世代、場合によっては数百年以上の隔たりをへて「資源化」され、再生することであるという仮説を提示したい。

参考文献

内堀基光 編
2007 『資源と人間(資源人類学 01)』東京：弘文堂

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 68 件)

1. [Suzuki, Motoi](#) “Para el ‘Renacimiento’ de las civilizaciones prehispánicas: un estudio comparativo de representación museográfica”, *América Latina y el mundo del siglo XXI: Percepciones, interpretaciones e interacciones* 2 (Universidad Megatrend), 245-251, 2018 年, 査読有.
2. [Ikezuki, Wataru](#) “Repensando el significado de ‘interculturalidad’ para continuar y mantener la civilización antigua andina en el contexto cultural contemporáneo por los indígenas y la educación bilingüe intercultural en Ecuador”, *América Latina y el mundo del siglo XXI:*

- Percepciones, interpretaciones e interacciones 2* (Universidad Megatrend), 253- 258, 2018 年, 査読有.
3. Kudo, Yumi “La medicina mapuche en el ambiente urbano: un caso en Santiago de Chile”, *América Latina y el mundo del siglo XXI: Percepciones, interpretaciones e interacciones 2* (Universidad Megatrend), 345-351, 2018 年, 査読有.
 4. 小林貴徳「マンガで学ぶ郷土の歴史と文化遺産 - メキシコ、トラランカレカにおける遺跡に関する住民の知識と経験をめぐって - 」『京都外国語大学ラテンアメリカ研究所「紀要」』18: 25-45, 2018 年, 査読有.
 5. Shakuya, Shigeki “El patrimonio cultural y la naturaleza en la situación del turismo masivo: el caso de los parques arqueológicos en la parte norte del Caribe Mexicano”, *América Latina y el mundo del siglo XXI: Percepciones, interpretaciones e interacciones 1* (Universidad Megatrend), 339-344, 2018年, 査読有.
 6. 鈴木紀「博物館の中のマヤ文明：表象と政治性」『古代文化』69(1): 96-108, 2017 年, 査読有.
 7. 井上幸孝「植民地時代の先住民記録に見る先スペイン期の歴史像の形成」『古代文化』69(1): 84-95, 2017年, 査読有.
 8. 藤掛洋子「パラグアイのグアラニー語とグアラニー文化の表象」『ラテンアメリカ時報』1420: 42-45, 2017 年, 査読無.
 9. 本谷裕子「グアテマラ高地先住民女性の織りと装いが織りなす異文化受容」『民族藝術』33: 32-38, 2017 年, 査読有.
 10. 鈴木紀「資源化される古代文明：遺跡の調査と活用に関わるアクター分析 - 序論」『古代アメリカ』18: 95-102, 2015 年, 査読有.
 11. 小林貴徳「守るべき遺産、活用すべき資源 - メキシコ、 Cholulera における文化的景観をめぐる行政と市民連帯」『古代アメリカ』18: 103-116, 2015 年, 査読有.
 12. 杓谷茂樹「資源としての「古代都市チチェン・イツァ」 - 交叉するステークホルダーそれぞれの思惑と地元露店商」『古代アメリカ』18: 117-130, 2015 年, 査読有.
 13. Zenno, Miho “Los movimientos sociales de los habitantes originarios de una colonia residencial en la Ciudad de México” 『京都ラテンアメリカ研究所「紀要」』15: 97-113, 2015 年, 査読有.
 14. Inoue, Yukitaka “Un analisis de dos Codices Techialoyan: Huixquilucan y Cuajimalpa” *Quaderni di Thule* 13: 609-614, 2014 年, 査読無.

〔学会発表〕(計 98 件)

1. Inoue, Yukitaka “La construcción novohispana de la imagen prehispánica: el caso de las crónicas de Alva Ixtlilxochitl”, Lectura invitada, Universidad Iberoamericana (Mexico City), 2019 年 2 月 5 日.
2. 鈴木紀「古代アメリカ文明の継承者は誰か：博物館展示から考える」, 古代アメリカ学会第 23 回研究大会, 専修大学生田キャンパス (川崎市), 2018 年 12 月 2 日.
3. Inoue, Yukitaka “El concepto de ‘autor’ en la tradición historiográfica indígena novohispana”, International Conference: Indigenous Knowledge as a Resource? Transmission, Reception, and Interaction of Global and Local Knowledge between Europe and the Americas 1492-1800, Eberhard Karls Universität Tübingen (Tübingen, Germany), 2018 年 9 月 11 日.
4. Shakuya, Shigeki “La invasión ilegal de los vendedores locales que queda sin solución entre las tensas relaciones de los actores en la Zona Arqueológica de Chichen Itzá”, Coloquio Internacional de México-Japón: Las sociedades mesoamericanas y los cambios culturales en su proceso histórico, Instituto de Investigaciones Antropológicas, Universidad Nacional Autónoma de México (Mexico City), 2018 年 8 月 23 日.
5. Zenno, Miho “El proceso de democratización y sus recursos culturales en los pueblos originarios de la Ciudad de México”, Coloquio Internacional de México-Japón: Las sociedades mesoamericanas y los cambios culturales en su proceso histórico, Instituto de Investigaciones Antropológicas, Universidad Nacional Autónoma de México (Mexico City), 2018 年 8 月 23 日.
6. Kobayashi, Takanori “Un desafío encallado del movimiento social por el patrimonio vivo: en torno al paisaje cultural urbano en Cholula, México”, Coloquio Internacional de México-Japón: Las sociedades mesoamericanas y los cambios culturales en su proceso histórico, Instituto de Investigaciones Antropológicas, Universidad Nacional Autónoma de México (Mexico City), 2018 年 8 月 23 日.
7. Suzuki, Motoi “¿Cómo se representan patrimonios prehispánicos?: un estudio comparativo de museos de antropología y arte popular en México y Perú”, Coloquio Internacional de México-Japón: Las sociedades mesoamericanas y los cambios culturales en su proceso histórico, Instituto de Investigaciones Antropológicas, Universidad Nacional Autónoma de México (Mexico City), 2018 年 8 月 22 日.
8. Suzuki, Motoi “La diversidad en la representación de las civilizaciones prehispánicas: un estudio comparativo de la museografía”, 56o Congreso Internacional de Americanistas, University of Salamanca (Salamanca, Spain), 2018 年 7 月 16 日.

9. Kudo, Yumi “Adaptación ideológica y práctica de la medicina mapuche en región metropolitana de Chile”, 56o Congreso Internacional de Americanistas, University of Salamanca (Salamanca, Spain), 2018 年 7 月 16 日.
10. Honya, Yuko “¿Plagio o no?: el problema acerca de la creatividad y la propiedad intelectual en el caso de la cultura de indumentaria de las mujeres indígenas en Guatemala”, 56o Congreso Internacional de Americanistas, University of Salamanca (Salamanca, Spain), 2018 年 7 月 16 日.
11. 鈴木紀「文化遺産としての古代アメリカ文明-博物館展示の比較研究」, 日本文化人類学会第 52 回研究大会, 弘前大学 (弘前市), 2018 年 6 月 3 日.
12. Suzuki, Motoi “El pasado como recurso estratégico”, Simposio Internacional “La valoración y uso del pasado en América Latina: las civilizaciones prehispánicas y culturas indígenas como recurso estratégico”, 国立民族学博物館 (吹田市), 2018 年 3 月 17 日.
13. 鈴木紀「アンデス文明は過去のものか?」, 日本ラテンアメリカ学会第 38 回定期大会, 東京大学教養学部 (東京都・目黒区), 2017 年 6 月 4 日.
14. Fujikake, Yoko “Estudio sobre nanduti (hilo de arana): artesanías tradicionales del Paraguay y su explotación cultural”, XVIII CONGRESO DE LA FIEALC, Megatrend University (Belgrade, Serbia), 2017 年 7 月 27 日.
15. Inoue, Yukitaka “Los reyes indígenas en la conquista de México: una lectura de la Decimotercia relación de Alva Ixtlilxochitl”, Consejo de Estudios Latinoamericanos de Asia y Oceanía 2016, Victoria University (Wellington, New Zealand), 2016 年 12 月 8 日.
16. Suzuki, Motoi “Entre Arqueología y Etnografía: Un Estudio Museográfico de la Representación de Mesoamérica en el Museo Nacional de Antropología, México”, Primer Congreso Internacional de Mesoamericanistas en Tokyo, キャンパス・イノベーションセンター東京 (東京都・港区), 2016 年 10 月 30 日.
17. 鈴木紀「美術館の中のメソアメリカ文明: 展示の詩学と政治学」, 日本文化人類学会第 50 回研究大会, 南山大学 (名古屋市), 2016 年 5 月 28 日.
18. Suzuki, Motoi “Representing pre-Columbian Heritage: a Comparative Study of Museum Exhibitions on Maya Civilization”, The 114th Annual Meeting of the American Anthropological Association, Denver, USA. 2015 年 11 月 20 日.

〔図書〕(計 1 件)

- ① 井上幸孝・佐藤暢編『人間と自然環境の世界誌—知の融合への試み』専修大学出版局, 277頁, 2017年.

〔産業財産権〕

- 出願状況 (計 0 件)
- 取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/project/other/kaken/26101005>

http://dendro.naruto-u.ac.jp/csaac/?page_id=50

<https://www.facebook.com/csaacx00/>

国際研究集会 (国内開催)

国際シンポジウム「ラテンアメリカにおける過去の価値と利用 先スペイン期文明と先住民文化の資源化をめぐる」(Simposio Internacional “La valoración y uso del pasado en América Latina: las civilizaciones prehispánicas y culturas indígenas como recurso estratégico”), 国立民族学博物館 (吹田市), 2018 年 3 月 17-18 日. 国内参加人数 46 名, 海外参加人数 5 名.

国際研究集会 (海外開催)

日墨 (メキシコ) 国際会議「メソアメリカ社会とその歴史過程における文化変容」(Coloquio Internacional de México-Japón: Las sociedades mesoamericanas y los cambios culturales en su proceso histórico), メキシコ国立自治大学人類学研究所 (メキシコ市), 2018 年 8 月 22-23 日. 国内参加人数 14 名, 海外参加者約 86 名.

6 . 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名: 生月 亘

ローマ字氏名: Ikezuki Wataru

所属研究機関名: 関西外国語大学

部局名: 英語国際学部

職名：准教授
研究者番号（8桁）：90300285

研究分担者氏名：井上 幸孝
ローマ字氏名： Inoue Yukitaka
所属研究機関名：専修大学
部局名：文学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：20399075

研究分担者氏名：工藤 由美
ローマ字氏名： Kudo Yumi
所属研究機関名：国立民族学博物館
部局名：人類文明誌研究部
職名：外来研究員
研究者番号（8桁）：80634972

研究分担者氏名：小林 貴徳
ローマ字氏名： Kobayashi Takanori
所属研究機関名：関西外国語大学短期大学部
部局名：英米語学科
職名：助教
研究者番号（8桁）：90753666

研究分担者氏名：杓谷 茂樹
ローマ字氏名： Shakuya Shigeki
所属研究機関名：公立小松大学
部局名：国際文化交流学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：90410654

研究分担者氏名：禪野 美帆
ローマ字氏名： Zenno Miho
所属研究機関名：関西学院大学
部局名：商学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：20365480

研究分担者氏名：藤掛 洋子
ローマ字氏名： Fujikake Yoko
所属研究機関名：横浜国立大学
部局名：大学院都市イノベーション研究院
職名：教授
研究者番号（8桁）：70385128

研究分担者氏名：本谷 裕子
ローマ字氏名： Honya Yuko
所属研究機関名：慶応義塾大学
部局名：法学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：30407134